熊日1959.12.19

歳末県議会ひらく

知事、提案説明

水俣病対策に重点

三十二議案を一括上程

十二月定例県本県議会は、会期八日間の日程で十八日午前十時二十分から本会議をひらき、平野まつ子県教育委員、坂田静雄県土木部長がそれぞれ新任のあいさつをのべたあと、一億二千八万円の追加更正予算案や県職員の給与条例改正案など県提出三十二議案を一括上程、寺本知事の提案理由の説明をきいて同十一時散会した。十九、二十日は休会、二十一日から一般質問を行なう。知事は説明のなかで、今回の追加更正予算案が①職員の給与引き上げに伴う予算措置②公共事業に対する国の負担額の増額に伴う予算の追加更正③水俣病対策の三つを骨子とするものであることを明らかにして、およそつぎのようにのべた。

【社会労働関係】水俣病患者の越年見舞金と生活困窮者の生活扶助費として百九十五万円、失業対策費に四百万円、河浦町病院建設費二千六百万円（厚生年金の転貸）などを計上した。

【農業経済関係】玉名郡天水村を中心とするミカンのナガタマ虫対策に八十五万円を計上した。不知火海沿岸漁民の救済策として、対馬海域の寒イカ釣りを奨励、所要経費の全額を県で補助することとし、また自力で出漁できない漁民には鳥根県、山口県方面のまき網漁業、神奈川、高知両県のまぐろ漁業乗組員に就職をあっせんすることにし、六百七十万円を計上した。

【土木関係】高瀬橋など道路整備事業費に三千六百万円、八代港湾整備事業に四千八百万円を追加し土地改良関係については、球磨南部地区取水樋門改修費に二千万円、同郡南部開拓地区土地改良事業費に一千三百万円、熊本市中島地区土地改良費に二百万円などを計上した。

【教育関係】教員の初任給改定に伴う経費五千四百万円、へき地手当の増加一千二百万円、単級複式学級手当二百万円を計上した。また荒尾高校、牛深高校、一町田農業高校の充実費と阿蘇農業高校、玉名高校、菊北農林高校の増築費などに四百万円を計上した。

また県営野球場の建設については熊大側との話し合いがつき、七百五十万円を追加した。

県会記者席

○…水俣病の紛争調停という難問題をみごと乗り切った寺本知事は、連日東奔西走の疲れもみせず提案理由の説明に登壇した。紛争の円満解決は文句なしに寺本知事の"金星"。そこで説明の冒頭、この問題の経過報告でもするかと思われたが、ついに一言も触れなかった。散会したあとで、"報告しようかと考えたが、私の自慢話みたいになってはエゲツないしね"ともらしていた。

○…納め県会といわれる十二月定例県議会は、水俣病紛争、歳計現金の貸付け制問題と十七日一挙に解決、波乱を予想される議題もなく、一九五九年はめでたく幕を閉じようとしている。しかし夫婦別れ状態の自民党旧県連派と旧統一派の"党再建問題"はどうやら来年に持ち越しとなりそうだ。

心もとない自民党再建

"党の再建でも話し合おうよ"と申し入れた。ところが平川氏は"本気でいってきたのかな"ひらく"という野上団長名の電報が十二百出されたが、旧統一派では"何のための総会か事前に連絡もなかった"と全員欠席を通告、そのついでに島田副団長から旧県連派の平川副団長に"党の再建問題は"本気でいってきたのかな"とうさんくさい表情。これでは党再建もところもとない。

○…こんどの給与引き上げで人事委員会の意見を表明した橋爪人事委員長は"初任給引き上げも暫定手当の本俸くり入れも、国家公務員に準じたもので適切妥当である"と判定した。三月県議会で否決された給与引き下げ案のときも同委員長は"妥当であり、かつやむをえない"とのべていたが真意はどこだろう？と傍聴にきた県職組のある幹部はいっていた。（M）

○…自民党県議団総会を十七日に